



南アルプスで見られる動植物

植物

維管束植物は、落葉樹林帯～高山帯に生育する 138 科 1,635 種が確認されています。

絶滅のおそれのある種 (IUCN・環境省・県のレッドデータブック等掲載種)



ヤツガタクトウヒ ●●●●◆



ヤシャイノデ ■●●●

絶滅のおそれのある種として、維管束植物 441 種が確認されています。これらの種は、生育環境の悪化や採集圧の増加等による個体数の減少がそのまま継続すると、絶滅の可能性が高いと予測されています。

南アルプスで見られる植物のうち、IUCN (レッドリスト) ではヤツガタクトウヒ、ヒメバラモミ、コウヤマキ、オノノヤガラが、環境省 (レッドリスト) ではヤシャイノデ、ウロコノキシソブ、キタダケトリカブト、ヒメセンブリ等が「絶滅危惧種」として掲載されています。

分布が限られている種 (日本固有種、南アルプス限定種、本州中部限定種等)



キタダケソウ ■●●●



タカネピランジ ■●●

南アルプスに生育する植物には、日本特産の固有種や日本での分布が限られる種が数多く含まれています。これは、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた植物が遺存分布し、一部は種レベルまで分化していった過程を表しています。

特に高山帯には、ヒイラギデンダ、タカネマンテマ、キタダケソウ、タカネピランジ等の日本では南アルプスにしか見られない種や、イナデンダ、サンブクリンドウ等の本州中部の亜高山帯～高山帯に分布が限定される種が生育しています。なお、分布が限定される種は、地域個体群の絶滅がその種の絶滅につながるため、その生育地は保全上重要な場所となります。

南限の種



ハイマツ ●◆

撮影/増沢武弘



チョウノスケソウ ◆

南アルプスが分布の南限となっている植物には、タカネシダ、キタダケデンダ、ハイマツ、ムカゴユキノシタ、チョウノスケソウ等の多くの高山植物にみられます。

植物の生育は、気候や地形、地質などの影響を受けやすく、特に高標高域に遺存する個体群などは、地史の主要な段階を表す顕著な見本となっています。

南限の植物は、地球規模の環境変動による直接的・間接的な影響への感度が高く、その存続が危ぶまれています。

厳しい環境に生きる種 (石灰岩地、崩壊地、岩隙地等)



イチョウシダ ●



チシマギキョウ ◆

南アルプスには、石灰岩地、岩隙地・風衝地、崩壊地、雪田などの特殊環境に生育する植物が数多く分布しています。これらの特殊環境に生育する植物は、その環境に適応することで他の植物との競合を避け、生き残ってきた植物ともいえます。

南アルプスの石灰岩地 (主に長野県側) には、イチョウシダ、トダイアカバナ、シライワコメグサ等が分布しています。一方、高山帯の岩隙地にはセンジョウデンダ、チシマギキョウ等、崩壊性砂礫地にはイワツメクサ、アカイシリンドウ等、雪田・雪崩斜面にはシナノキンバイ、キタダケカニツリ等、風衝地にはガンコウラン、オヤマノエンドウ等が分布しています。